

映画「プリズン・サークル」を観て

大山町人権・同和教育推進協議会とええがな大山実行委員会共催の事業で「プリズン・サークル」という映画を上映しました。参加された小学校の先生の感想を紹介します。

私は、小学校で人権教育や生徒指導に関わらせていただいております。現場で少しでも指導の参考になればという思いでこの映画を視聴させていただきました。

この映画で紹介された「島根あさひ社会復帰促進センター」は、民官協働の新しい刑務所です。ここでは、受刑者が自分の犯した罪に向き合いながら、自分自身の幼い頃の生活体験を受刑者同士で対話することを通して更生を促していく「TC（回復共同体）」というプログラムを導入しています。このプログラムにより、犯罪の原因を探るとともに自分の犯した罪に向き合い、社会復帰できるような更生を促す取り組みが行われています。

映画の中では、このプログラムを通してそれぞれの受刑者達が自分の犯した罪のことだけではなく、幼いころに親に捨てられたり、DV・ネグレクト・いじめ・差別等を体験したりしてきたことを、

お互いに聞いたり話したりしながら、自分自身を自覚して犯した罪に向き合いながら社会復帰をしていく姿が描かれています。ただ、全ての犯罪の原因がこのような幼い過去の経験がトラウマとなつていくわけではないと思います。また、だからと言ってその罪が許されるわけでもありません。しかし、受刑者達が語っていた幼いころの辛い体験がなければ、もしかしたら起きなかつた犯罪も少なくないと思います。

私はこの映画を観て、幼い子ども達が家庭や施設等で大人からの温かい愛情に包まれながら、安心して生活できる環境が、その後の人生にどれだけ大きな影響を及ぼすかということを確認させられました。そして、私たち大人は常に目の前の子ども達をしつかりと見守り、安心して生活できる環境を整えることがどれだけ大切なことなのかを痛感しました。

学校では、生徒指導に関わる問題行動やいじめ・差別等の人権に関わる事象が起こることは少なくありません。それらの課題に対して、そこで起きた現象だけに目を向けて対処したり指導したりするのではなく、その時の当事者の気

持ちや思い、さらには当事者の抱えている家庭環境等の背景にまで、しっかりと寄り添いながら対応していくことも大切なことだと改めて考えさせられました。

しかし、個人情報保護法の制定等により、学校でも家庭環境調査で細かいことまでは把握できなくなつてきているのが現状です。学校だけで子ども達を守っていくことはできません。だからこそ、これからもそれぞれの家庭のプライバシーは守りつつ、できる限り家庭等との連携を密にし、教師と保護者がお互いに信頼し合い、力を合わせて子ども達の命と人権を守っていききたいと思えます。

今回このような事業を企画していただいた、改めて児童・生徒との向き合い方や保護者とのつながりの大切さを考える機会を与えてくださったことに感謝いたします。本当に感動し考えさせられる、すばらしい映画でした。ありがとうございました。

コロナ禍での人権啓発事業をどう効果的に実施するか悩みは尽きませんが、人権推進室では知恵を絞って新しい形の事業を進めていきたいと考えています。

令和2年度 鳥取県教育委員会表彰

大山町で人権教育に携わる2人の方が、長年の貢献と功績が称えられ受賞されました。

【団体役職員】

澤田 真美さん（大山町人権・同和教育推進協議会事務局員）

大山町で実施している「大山町人権・同和教育推進協議会」を平成18年度から「参加型学習（ワークショップ）」に切り替え、普遍的な視点からの権利を基礎にすえたアプローチに取り組みされました。その中で参加者が身体や感性を働かせて、体験を通して主体的に学ぶことのできる「参加型学習」により毎年新たなテーマで学習プログラムの作成に取り組みでおられます。

【個人功労者】

井上 誠行さん（大山町教育委員会 前大山町人権教育推進員）

平成22年度から10年間大山町人権教育推進員として大山町の人権教育、特に「大山町人権・同和教育推進協議会」の推進にご尽力されました。